

# 未来に生きて働く探究力と省察性の育成

## 社会科の本質

社会科は社会認識をとおして、公民的資質を育成する教科である。公民的資質の育成は社会科の究極の目標であり、公民的資質は、国際社会に生きる民主的で平和的な国家・社会の形成者として必要な資質・能力である。このような資質・能力を育成するためには、広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知を生み出すことや我が国の歴史や文化を大切にしながら、持続可能な社会の実現に向けて**よりよい社会の形成に参画する資質・能力**の基礎を培うことを重視していく必要がある。

## 社会科の目標及び育みたい探究力、省察性、見方・考え方

社会科の目標	社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う。(＝よりよい社会の形成に参画する資質・能力の育成)
育みたい探究力	社会的な見方・考え方を働かせながら、実社会に存在する課題を問題と捉え、問題解決のために様々な情報を収集し、整理分析し、仲間と共に問題解決方法を創造し、表現・発信する資質・能力。
育みたい省察性	自他の問題解決について社会的な見方・考え方を働かせながら見通したり、振り返ったりする中で学習を調整・改善したり、学んだことを実社会・実生活とつなげたりし、問題解決の質を高める資質・能力。

## 社会科における探究のイメージ（単元）

### 【社会の問題発見】

問題を発見し  
**学習問題を設定**する  
解決の見通しをもつ  
社会参画（問題解決）への意欲の喚起

### 【社会を考察する過程】

問題解決①  
問題解決に向けて、**情報を収集し、整理・分析**を行う。  
社会参画（問題解決）に向けて情報の収集と解決方法の追究

### 【社会を構想する過程】

問題解決②  
問題解決に向けて、**まとめ・表現・発信**する。  
問題解決方法の追究  
問題解決に向けた取り組みの実施

## 探究力と省察性を育む指導

よりよい社会の形成に参画する資質・能力を育成するためには、実社会の問題の解決に向けて社会的な見方・考え方を働かせながら問題解決を進める「探究力」と自らの問題解決を調整・改善したり、学んだことを実社会・実生活とつなげたりするための「省察性」を育む必要がある。そのためには、本校が掲げている「探究する子どもの4つの姿（主体・協働・活用・省察）」を具現化できるような授業づくりのしかけを行うことが大切である。今年度は、以下の6つを重視した指導を行う。

- ① 子どもが本気で解決したいと思う子どもにとって切実感のあるオーセンティックな学習問題の設定【主体】
- ② 子どもがこれまでに獲得した知識を活用・発揮できるパフォーマンス課題の性質を含んだ学習問題の設定【活用】
- ③ 子どもが他教科等で学んだ知識を活用・発揮しやすい状況をつくり出す教科等横断の視点でのカリキュラム・デザイン【活用】
- ④ 他者との協働をとおして、価値判断・意思決定する場や思いや考えを再構成する場の設定。【協働】  
【活用】【省察】
- ⑤ 思考を可視化したり、意見や考えの共有化を図ったりするツールや方法の工夫【協働】【省察】
- ⑥ 学びを振り返り、自己の学びを価値づけたり、学んだことを実社会や実生活とつなげたりする時間の設定。【省察】

## 研究の評価

取り組んだ授業実践の中での子どもの言葉をもとに、研究の成果と課題を明らかにしていく。その際に授業での子どもの言葉やノートの記述などの子どもの表現物を用いて研究の質的評価を行う。また、年度初めと年度末にアンケート調査を行い、アンケート結果による量的評価も行う。